

2022 年度（令和 4 年度）

事業計画書

自：2022 年（令和 4 年）4 月 1 日

至：2023 年（令和 5 年）3 月 31 日

法人本部事業計画

1 概況

コロナ感染の中、園児等利用者、スタッフに感染者は出ているが、感染防止策の徹底により、大きなクラスターになることなく現在推移している。この4月から現在建築中の砧愛の園の事業を開始する。ここ数年来準備を進めてきたまこと保育園のこども園化を進めるために富岡八幡宮所有の建物をお借りしデイサービス、ライト学童の移転を行う。法人運営の強化のため、事務機能の検討、待遇の検討を始める。

2 計画

① まこと保育園の子ども園化について

子ども園化にともなう改修工事に際し、園外に適切な仮園舎確保ができないことから、富岡八幡宮所有の建物をお借りし深川愛の園デイサービスおよびライト学童クラブを現在地から移転することとし、空いたスペースをまこと保育園の仮園舎とすることとした。深川愛の園デイサービス、ライト学童クラブが移転するための改修費用確保のために日本財団の助成金を申請したところ、審査を通過し助成を受けることとなった。次年度富岡八幡宮所有の建物の改修工事を行い、デイサービス、ライト学童の移転を行う。

② 給与体系、人事考課の改定について

2022年度に給与体系、人事考課の改訂を行う。現社会保険労務士に変えて、給与制度の見直しに強い社会保険労務士と委託契約を行う予定。どの事業まで見直しを行うか現在調整中

③ 法人本部体制の強化について

少子・高齢化がさらに進む将来に向け、事務機能の見直しを行いながら、法人本部の機能を強化するための検討を行う。

④ 砧愛の園新設について

2022（令和4）年4月砧愛の園が開設する。認知症対応型GH、小規模多機能居宅介護の事業を行う。

⑤ 収益事業について

聖救主福祉会が富岡八幡宮所有の建物を賃貸し、ライト学童クラブ（NPO法人地域で育つ元気な子）に2階部分を、賃料をとってお貸しする（富岡八幡宮は了解済み）ので、収益事業を行う。

2022年度 まこと保育園 事業計画

【 2022年度の展望と重点目標 】

2020年度から続く新型コロナウイルス危機の中、年が明けてからのオミクロン株では江東区内でも保育園児に感染が拡大し、当園でも初めての臨時休園を2回経験した。日常生活の中での感染防止、行事の見直し等年間を通して対応に追われた。2022年度も収束が見通せない状況であり、引き続き行事を含め園児・職員の安全と事業の継続の両立について取り組んでいきたい。また、リニューアル計画を含む将来計画を描き、様々な準備を進めていく。事業承継に向けて職員の体制づくり、意識作りの準備も進めていく。まずは保護者も含め情報共有を行い、理解とコンセンサスを深めること、そして保育内容や労務管理についてのソフト部分の検討、園舎の詳細等ハード部分の検討等を進めながら、かかわる一人一人の意識と方向性をまとめていく。

- 取り巻く環境：コロナの影響による事業の縮小（延長保育、一時保育、地域活動）、江東区の保育方針の転換（拡大から抑制へ）による受け入れ人数弾力化の段階的終了（2020年度107名、2021年度105名、2022年102名、最終的に99名へ）など、減収が見込まれるので、収入の増加を図る
⇒ 一時保育の受け入れ増加など。
保育士の採用困難は続いている。
- 保育ICT化
キッズビューシステムの導入
登降園 打刻、保護者ツールの導入、保育帳票類の作成
- 外部への広報活動を行う
HP・ブログの更新、採用HPの完成
SNSの活用：広報チームの発足
- 2024年4月開園予定のこども園化計画にむけて、準備を進める。
こども園準備室
図面の整備（仮園舎、本園舎）、保育・労務などの仕組みの準備
職員とのイメージの共有、体制の具体的な検討
保護者への丁寧な情報共有、キッドスクールとの連携
- 新しい場所でひろば「ころころ」を展開する

2022 (R4) 年度 深川愛の園 事業計画

1. 事業概要

① 事業を取り巻く環境

- 2022年度介護保険の大きな制度改正は無いが、「介護職員処遇改善支援補助金」が開始され、加算により数%収入が増加するが、その収入以上を人件費で支出。同一労働同一賃金の制度改正は、中小企業を悩ませている状況。
- 利用される高齢者は、近隣の特養で移転増床が2施設予定されており、特養入居者について、地域の受け入れ規模に多少変化あり。引き続き、感染症の拡大による在宅サービス利用者の減少の可能性あり。
- 日本の総人口、生産人口の減少は大きな影響あり。介護職は定期採用、その他可能な職種は育成、育成が困難な専門職種は中途採用を基本とし、可能な限り採用経費を節減する。2022年度新卒採用5名(全員20代、外国人3名)。
- 社会福祉連携推進法人制度が施行され、経営マネジメント、人財の採用・育成等、ますます法人・施設運営の在り方が問われている。

② 事業の課題

- (1) 管理職候補等の人財不足
- (2) 将来の費用の積み立て不足と不十分な運転資金
- (3) 建物設備、備品等の老朽化と非効率な職場環境

2. 事業計画

- (1) 人財育成の仕組みづくり、人財採用のさらなる推進
 - ・施設全体の職員育成方針・計画を周知
 - ・キャリアパス・研修カリキュラムの明確化し、周知
 - ・リモート等研修受講推進
 - ・定期採用3~5名
 - ・人事制度改定の検討
- (2) 必要な収益の確保
 - ・各部門の目標利用者数獲得、目標稼働率達成
 - ・目標収益2000万円、うち積立1000万円、運転資金2か月分確保
- (3) 職場環境、建物設備の整備
 - ・12月デイ移転、開設
 - ・ICT化の推進(業務改善)
 - ・備品(車イス、低床ベッド)の計画的更新
 - ・劣化した建物・設備の更新

西東京エリア 2022年度 事業計画総括表

I 善福寺愛の園

1. ぐるーぷほーむはこぶね（定員9名）

2022（R4）年度重点目標

○利用満足度を高め、利用者・家族クレームゼロ。

	2022年度目標	2021年度予想	2020年度実績	2019年度実績
年間延定員数	3,285	3,285	3,285	3,294
年間延利用者数	3,235	3,285	3,223	3,231
稼働率（%）	98.5%	100.0%	98.3%	98.0%
1日平均利用者数	8.8人	9.0人	8.5人	8.8人

利用単価 1日当り 14,995円

目標達成の具体的取組案

日中、職員が座りながら利用者とコミュニケーションが図れる環境作り。

2. デイサービスセンターにじの家（定員12名）

2022（R4）年度重点目標

○利用者の在宅生活支援のための法人の枠を超えたチームアプローチへの積極的参画

	2022年度目標	2021年度実績	2020年度実績	2019年度実績
年間延定員数	4,356	4,356	4,356	4,356
年間延利用者数	2,482	2,500	2,469	2,269
稼働率（%）	57.0%	57.3%	56.6%	52.0%
1日平均利用者数	6.7人	6.8人	6.8人	6.2人

利用単価 1日当り 15,123円

目標達成の具体的取組案

特に他事業所との情報共有と意識の共有化（ケア会議、電話連絡を通じて）

II 砧愛の園

1. グループホーム砧愛の園（定員9名）

2022（R4）年度重点目標

○ユマニチュードを志向した介護

	2022年度目標	2021年度予想	2020年度実績	2019年度実績
年間延定員数	3,285			
年間延利用者数	2,739			
稼働率（%）	83.4%			
1日平均利用者数	7.5人			

利用単価 1日当り 15,436円

目標達成の具体的取組案

職員教育の徹底と日中、職員が座りながら利用者とコミュニケーションが図れる環境作り。

2. 小規模多機能型居宅介護砦愛の園（定員 25 名/月）

2022（R4）年度重点目標

○在宅生活の継続支援においては、世田谷区随一を目指す。

	2022 年度目標	2021 年度予想	2020 年度実績	2019 年度実績
年間延定員数	300			
年間延利用者数	192			
稼働率（％）	64.0％			
1 日平均利用者数	一人			

利用単価 1 月当り 366,437 円

目標達成の具体的取組案

ケアマネージャーを中心として在宅生活環境の徹底改善。

看護師を中心とした、身体機能の維持向上・健康状態の維持向上。

「きぬたんてらす」を活用した地域活動参加促進。

「訪問」中心のプラン作成。

2022年度 砧愛の園事業計画

□事業内容

- ・小規模多機能型居宅介護・・・25名定員（通い15名、泊り9名）
- ・グループホーム・・・9名定員

□職員構成

- ・常勤職員・・・6人
- ・パートナー職員・・・15人

□地域状況（世田谷区）

- ・規模・・・人口94万人、世帯数49万世帯、高齢人口率20.1%
- ・成長性・・・人口増減率104.5%（2015-2020）
- ・競合・・・「小規模みんなんち」千歳台4-2-1
「優っくり小多機喜多見」喜多見3-10-7
「小多機のおて梅丘」梅丘1-2-18

隣接地区の小規模多機能は上記3か所。隣接地区で大蔵、桜丘、祖師谷、成城が未整備。砧を中心として未整備地区への展開を図る。上記事業所の中では「優っくり～」が最も建物や組織が整っているが、世田谷通りを境にいわゆる商圏が切り分けられているので、棲み分けを行う。

□人員計画（採用・教育）

- ・パートナー・・・地域住民からの芋ずる採用
- ・夜勤専従・・・日本女子体育大学からの採用強化
- ・常勤・・・パートナー、夜勤専従からの昇格
- ・管理層・・・砧・善福寺のチーム管理（対象職員5名）

□サービスの重点項目

（小規模多機能）

病院退院・老健退所支援。施設入所が既定路線の方の在宅回帰を1年単位で計画し実行。実績を積み上げ砧愛の園のブランディングを行う。

（グループホーム）

ユマニチュードの実践。心を重視したケアを標榜する。利用者、家族から絶対的な信頼を勝ち得る証としてクレームゼロを目指す。

（「きぬたんカフェ」※地域交流スペース）

定休日（週1日）と年末年始以外、毎日開催。オリジナルキャラきぬたん

の地域への周知。

□事業の差別化

- ・地域交流・・・行政・地域包括はもとより生活クラブ、地域商店、自治会、地域団体との独自のネットワークを構築済。介護施設の枠を超えた地域貢献の展開。
- ・人材・・・地域採用にて公認会計士、行政書士を確保。経営の効率化と成年後見について事業所独自の提案を実施予定。
- ・シェア・・・善福寺・砧で人員をシェアして安定した体制構築。

□営業展開

- ・病院・・・地域採用の看護師3名が独自のコネクションにて砧地区に所在する全ての病院の営業を実施・継続にて小規模多機能の利用者を確保。
- ・居宅介護・・・砧地区を中心に毎月30件以上の営業がノルマ（ケアマネ、管理者に会えない場合はノーカウント）小規模多機能の利用者確保。
- ・老健・・・世田谷区内の全ての老健に年2回の営業がノルマ
- ・地域包括・・・砧地区担当の地域包括とオレンジカフェの合同開催（月1回）連携を深める。